用語解説

用語解説について以下に示します（五十音順）。

用語	解説
ア行	
一日最大取水量	1年間の各日の取水量のうち、最大となった日の取水量。
一日最大受水量	1年間の各日の受水量のうち、最大となった日の受水量。
一日最大送水量	1年間の各日の送水量のうち、最大となった日の送水量。
一日最大配水量	1年間の各日の配水量のうち、最大となった日の配水量。
一日平均取水量	1年間に取水された水量を年間日数で割った水量をいう。
一日平均受水量	1年間に受水された水量を年間日数で割った水量をいう。
印旛広域水道用水供給事業	印旛郡市広域市町村圏事務組合で実施している、印旛郡市の7市1町1事業団に水道水を供給する事業。
永久井	千葉県環境保全条例に基づく指定地域となった際に、現に使用していた井戸で、技術上の基準に適合した井戸。なお、技術上の基準に適合している間は、継続して使用が可能。
影響度評価	市民に与える影響の大小を評価。ここでは、管路内を通る水量が多いほど管路が破損した際の被害が大きくなるため、水量の大小で評価を行う。
液状化	地震の際に、地下水位の高い砂地盤が振動により液体状になる現象。液状化により、比重の大きい構造物が埋もれ、倒れたり、地中構造物（水道管等）が浮き上がったりする被害が発生している。
カ行	
簡易耐震診断	建設年代や構造材料などを指標として、構造計算等の数値解析を用いずに、簡易に耐震性能を評価する方法。精度はやや劣るものの、多くの施設を一括して診断できるメリットがある。
管網計算	配水管のネットワークをモデル化し、特定の条件における水の流れを再現することで、最適な管網の配置を決定するための計算。
管路経年化率	法定耐用年数の40年を超えた管路延長の割合を表す指標。管路の老朽化度合を示す。

用語	解説
管路の耐震化率	全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合。
管路の物理的診断	管路の老朽度を把握するために、事故危険度、水理機能、耐震性、水質保持機能、経年化等の観点から管路を診断すること。
企業債	地方公営企業が建設改良事業等に要する資金に充てるため、国などから借り入れる長期の地方債。
機能診断	施設等が所定の機能を有しているかについて評価する診断。
給水区域	水道事業者が厚生労働省や都道府県の認可を受け、一般の需要に応じて給水を行うこととした区域。
急速ろ過設備	原水中の不純物を薬品によって凝集させた後、ろ過する設備。
許可揚水量	千葉県環境保全条例に基づく指定地域内で設置が認められた井戸の一日当たり取水可能な水量。
経常収支	給水収益等の収益。営業収益や営業外収益から営業費用や営業外費用を引いたもの。
計装設備	様々な測定装置を使って設備や動力を計測・監視し、制御する設備。
県営水道	千葉県が経営する水道事業。
減価償却費	建物、機械設備、備品など1年以上利用する資産を購入した場合、その購入価格をいったん資産として計上した後、当該金額を設定した資産の耐用年数にわたって、費用として配分する金額。
原水	深井戸から汲み上げた地下水で、浄水処理を行う前の水。
建設改良投資	水道の施設について建設や更新等を行うための投資。
国庫補助金	水道施設などの整備を行うに当たり、特定の事業について特別の必要があると認めるとき、国から交付される補助金。
サ行	
財政シミュレーション	既存の財政データを用いて将来の財政状況をシミュレート（模擬）すること。
債務負担行為	当年度以降にわたって金銭の給付を目的とする債務を負担する契約等。
暫定井	千葉県環境保全条例に基づき、代替水源が確保できるまでの間、暫定的に使用を許可された井戸。

用語	解説
時間変動調節容量	配水場に入ってくる送水量と、配水場から出ていく配水量の間に大きな差（変動）が発生した際、その変動分の水量を配水池で調整するために、貯えられる容量のこと。
資本的収支	水道事業の経常的経営活動に属さない収入・支出のうち、現金の収支を伴うもの。
資本費	減価償却費・支払利息・受水費中資本費相当分の合計から長期前受金戻入を引いたもの。ここでは、減価償却費と支払利息を合算した値。将来の施設整備費に要するコストが収益的収支に与える影響を示す。
収益的収支	水道事業の経常的経営活動に伴って発生する全ての収入と支出。
取水量	深井戸から汲み上げた地下水の量。
受水量	印旛広域水道用水供給事業より、本市へ送水される水道水の量。
重要給水施設	災害時に重要な拠点となる病院、診療所、介護や援助が必要な災害時要援護者の避難拠点など、人命の安全確保を図るために給水優先度が特に高いものとして地域防災計画等へ位置づけられている施設。
浄水	原水を水質基準に適合するように処理した水道水。
浄水処理	原水を水質基準に適合するよう行う処理。
消毒副生成物	塩素消毒等を行なった際に、塩素等が水中の有機物と反応することで生成される物質の総称のこと。
除鉄・除マンガン装置	原水中に溶融している鉄分、マンガン分を薬品によって酸化させた後、ろ過する装置。
水管橋	川や谷を超えて水を運ぶための橋。
取水能力	深井戸で汲み上げ可能な地下水の量。
水質基準項目	水道法第4条の規定に基づき、「水質基準に関する省令」で規定する水道水の水質基準対象項目（51項目）。
推進工	地下にトンネル状に掘削した穴に管を通して開削せずに管を布設する工法。
石綿セメント管	セメントにアスベストを混合して製造した繊維セメントの一種である石綿セメントを用いた管。施工性が良く安価であったため、昭和30年代から40年代に水道管として多く使用されてきた。
総合物理的評価点数	管路の更新優先度を選定する上で設定する点数。事故危険度、水理機能、耐震性、水質保持機能、経年化率等から算出する評価点数。

用語	解説
損益	営業期間における収益とそれに対応する費用の差引によって表示される利益または損失。
損益勘定留保資金	減価償却費、資産減耗費などの過去の投資を費用化したもので、企業内部に留保される資金。資本的収支の補てん財源の一つ。
タ行	
耐震性能	地震の影響を受けた水道施設の地震時及び地震後の性能。
耐震継手	地震時の地盤変動に対して、管の継手部に伸縮性や可とう性能を持たせることによって地震による変位を吸収する継手。
耐震適合性	耐震管以外でも管路が布設された地盤の状況により耐震性があると評価できる管。
ダクタイル鋳鉄管	従来の鋳鉄管の強度等を改良した管。
ダクタイル鋳鉄管（A形継手）	ゴム輪を押輪とボルトで締めつけて接合するメカニカルタイプのダクタイル鋳鉄管。最も初期に使用されたメカニカル継手の形式であるが、その後、改良されたダクタイル鋳鉄管が普及したことから現在は使用されていない。
ダクタイル鋳鉄管（K形継手）	ダクタイル鋳鉄管の継手の一種であり、Kairyou（改良）の頭文字をとる。角ゴムだけのメカニカル継手（A形）を改良し、角ゴムと丸ゴムを一体化したゴム輪を使用し水密性を一層高めたもの。
ダクタイル鋳鉄管（NS形継手）	ダクタイル鋳鉄管の継手の一種であり、NewS（新しいS形）の頭文字をとる。S形と同等の耐震性能を有し、施工性に優れた新しく開発された継手。
ダクタイル鋳鉄管（NS形　E種管）	近年採用実績が増加しているダクタイル鋳鉄管であり、NS形を改良し重量を軽量化し、施工性に優れたダクタイル鋳鉄管。
ダクタイル鋳鉄管（GX形継手）	NS形を改良した管種で高い施工性と外面に耐食亜鉛系塗装の長耐久性などの優れた性能を持つダクタイル鋳鉄管。
地表面最大速度	地震発生時における地表面の最大加速度。地表面最大加速度とともに用いられる地震動の規模を表す指標。
長期継続契約	物品の借入れや役務の提供を受ける契約のうち、条例で定めるものについて、債務負担行為を行わなくても長期的な契約締結ができる契約。
貯留時間	配水池内に水道水が留まっている時間。
ドレッサータイプ	管の伸縮力がゴムリング面圧以上になるとスライドし、管外形と本体のクリアランスで可とう機能を持つカバージョイント形の継手の構造。
ナ行	
鉛製給水管率	給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合。

用語	解説
認可揚水量	本市水道事業が厚生労働大臣より認可を受けた、各井戸の一日最大取水量。
認可供給水量	印旛広域水道用水供給事業が厚生労働大臣より認可を受けた、各水道事業体への一日最大供給水量。
ハ行	
配水管	配水場から給水区域に水を配る管。
配水池	水道水の需要量の変動に応じて適切に配水するため、水道水を一時的に貯留しておく施設。
配水池容量	配水池に貯留可能な水道水の量。
普通鋳鉄管	ねずみ鋳鉄（破面が灰色の鋳鉄）を使用した管。明治初期から昭和30年頃まで使用されたが、より優れた特性を持つダクタイル鋳鉄管が普及したことから、現在は製造されていない。
法定耐用年数	地方公営企業法令により定められた有形固定資産の減価償却期間。
マ行	
水需要	水道利用者が必要とする水量。
ヤ行	
用水供給事業	浄水処理した水道水を水道事業者に供給する事業。
有効容量	実際に水を使用できる配水池の容量で、水が満水になった水位からポンプの停止する水位（配管の少し上）までのこと。
ラ行	
ライフサイクルコスト	管路布設費及び地震被害に対する復旧費のトータルコストのこと。
料金回収率	給水原価（1m3の水をつくるために要する費用）に対する供給単価（1m3当たりの給水収益）の割合。
レバーブロック	人間の手引力を使って荷物を水平や斜めなどの方向から引寄せたり、つり上げたり、締め付けたりする作業を目的とする荷役機械。ジャッキに比べると作業が容易である。
レベル1地震動	使用期間中に一度は発生する確率の高い地震動。
レベル2地震動	使用期間中に、発生の確率は低いが、想定される最大規模の地震動。

成田市水道事業施設更新計画

令和元年　６月

成田市水道部

〒286-0012　千葉県成田市山口 293-1
TEL：0476-22-0269
FAX：0476-22-6122
http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/suido/index0000.html